

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）事後評価調書

都道府県名	愛知県	事業実施主体	愛知県、新城市	地域再生計画名	「山と共に歩むまちしんしろ」活性化計画
計画期間	令和2～令和6年度	評価責任者	愛知県建設局道路維持課長、新城市建设部土木課長		

地域再生計画に記載した 数値目標の実現状況	地域再生計画の目標		基準値		中間目標値		最終目標値		事後評価	達成状況		最終目標値の実現状況に関する評価	
			基準年度	年度	中間実績	基準年度	最終実績	指標 総数		達成 数			
	目標 1	森林整備の促進	704ha	H29	785ha	R4	455ha		840ha		R6		437ha
	目標 2	三河材（地元材）の利用促進	20,620m3	H29	22,648m3	R4	15,000m3	24,000m3	R6	22,000m3			3
目標 3	新城ラーリーの来場者数の増加	49,000人	H30	54,000人	R4	26,500人	59,000人	R6	-	×			
事業の実施状況に関する客 観的な指標（KPI）の実現状 況	重要業績評価指標（KPI）		基準値		中間目標値		最終目標値		事後評価	達成状況			
	指標 1	法面危険箇所の減少	0箇所	R1	9箇所	R4	9箇所	15箇所	R6	15箇所	-		林道の法面危険箇所が減少したことで、今後の森林整備の円滑化、ひいては三河材の利用促進に繋がることが期待される。
	指標 2	未舗装区間の解消	0m	R1	4,040m	R4	4,962m	6,440m	R6	5,893m	-		林道の未舗装区間3路線の整備がほぼ完了したことで、今後、森林施業に必要なアクセス環境が改善され、森林整備の円滑化が期待される。
	指標 3	流通加工施設へのアクセス時間短縮	0%	R1	68%	R4	55%	100%	R6	85%	-		大島線は完了に至らなかったものの、小畑吉川線が完了したことで、アクセス時間短縮に一定程度寄与できた。
	指標 4	耐震性に問題のある橋梁の修繕	0橋	R1	5橋	R4	4橋	5橋	R6	5橋	-		緊急輸送道路に架かる橋梁3橋を中心にした耐震補強・修繕を実施し、緊急輸送路等の主要道路の強靱化が図られた。
	指標 5	安全安心のための道路整備	0%	R1	100%	R4	61%	100%	R6	100%	-		舗装修繕を実施したことで、木材流通経路・観光拠点へのアクセス改善が図られ、住民生活の利便性の向上にも繋がった。
	指標 6	新城ラーリーの開催	1回/年	R1	1回/年	R4	1回	1回/年	R6	0回	-		競技主催者からの申出により新城ラーリーはR4年度大会をもって終了し目標の達成に至らなかったが、市道大見線の改良により新城総合公園のアクセス改善につながった。
事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）										
			計画	中間年度 （R4）	最終実績								
地域再生計画に記載があ る特別の措置を適用して 行う事業	市道整備事業		8,556m	6,282m	7,963m	今回の整備により、緊急輸送道路等主要道路の強靱化が図られた。また、木材流通経路の安全、流通加工施設へのアクセス時間短縮、地域住民の安全を確保することができ、地域の活性化が見込まれる。							
	林道整備事業		8,490m	6,243m	7,971m	林道の整備により、林内路網の充実が図られ、高性能林業機械による施業可能範囲は広がったが、現段階では間伐面積や三河材の利用実績に反映されていない。今後は今回整備した林道を活用し、流域環境に大きな影響を持つ水源地域の森林保全に努めていく。							
その他の事業	三河材の利用促進					鳳来総合支所、消防詰所の建設に三河材を利用した。また、治山、林道事業における三河材の利用の取組を進めており、今後さらに利用促進に努めていく。							
	高性能林業機械の保有促進					効率化施業への働きかけと林道・作業道等の基盤整備に伴い、R元年の19台からR6の22台へとおよそ16%増となっている。高性能林業機械を活用しながら森林整備を進めていく。							
	バイオマス燃料としての木材の利用促進					新城市湯谷温泉のボイラー燃料として毎年839m3の木材を利用しており、今後も利用促進に努めていく。							
	森林整備・林業を担う後継者の育成					チェーンソー講習や刈払講習を毎年各5回程度実施している。今後、より多くの方に森林整備に関心を持って貰えるような工夫をしながら、講習会等を続けていく。							
	市民と行政の協同による美化作業					毎年春と秋の年2回、自治会や各種団体に呼びかけ道路美化清掃活動を実施し、道路環境の改善を図った。							
計画外で独自に実施した 事業													
評価方法	「「山と共に歩むまちしんしろ」活性化計画」評価委員会を開催し、最終目標値の実現状況に関する評価・検討を行う。												
事後評価の公表方法	新城市土木課のホームページに掲載												
計画全体の総合評価	本地域再生計画は、道整備交付金を活用した市道整備と林道整備を一体的に行うことにより、林業従事者の利便性の向上、三河材流通加工事業組合等の林業関係機関の活性化、また、間伐の促進、三河材の利用促進を図るなど、地域特性を踏まえた林業を振興すること、さらに、観光アクセス道路であり企業団地へのアクセス道路である主要道路の環境整備を行うことで、市民の快適で安全な生活の推進と地域の活性化を図ることを目的として計画を推進してきた。 目標 1，2，3ともに目標値を達成することができなかったが、計画していた市道・林道の整備が概ね完了したことで、流通加工施設へのアクセス整備と併せて交通環境の改善を図ることができた。また、本計画を実施したことで、大型機械を利用した整備が行える森林面積が増え、森林整備の促進、三河材の利用促進に繋がることが期待されることから、今後も計画的な森林整備に努めていく必要がある。												
今後の方針等	森林整備は、自然環境の保全、下流域の水源としての役割、地球温暖化防止等、多様な公益的機能を担っているが、その一方で担い手不足や木材価格の低迷などにより、森林整備が進まない状況がここ数年続いている。 本計画により一定の成果が得られたものの、林業振興や地域生活の向上、地域防災力の強化はもとより、新城ラーリーに代わるロードバイク等の振興による地域活性化に向け、引き続き市道・林道の整備が重要である。このため、他制度の活用も視野に入れながら、継続的に市道・林道整備を推進していきたいと考えている。あわせて、今回整備した市道・林道をより有効に活用できるよう、森林整備計画の見直しを行うとともに、森林整備及び三河材の利用を促進していく。												